

国際知財司法シンポジウム2023



開会挨拶を行う深山最高裁判事

令和5年10月17日、10月18日及び10月19日に、「国際知財司法シンポジウム2023～アジアにおける知的財産紛争解決～」が弁護士会館講堂クレオにて開催されました。

本シンポジウムは、国際的なハーモナイゼーションが深まっている知的財産の世界において、国際的な動向や課題を適切に把握し、各国が互いの法制度や審理運営の在り方について知識や理解を深める重要な機会として好評を得てきました。

7回目となる今回のシンポジウムでは、アジア11か国から知的財産分野の専門家を招いて、活発な議論が行われました。昨年に引き続き、海外の知的財産分野の専門家の多くを実際に会場に迎え、有観客で実施しつつ、オンラインにて、同時視聴も可能な形とし、3日間で延べ約1200人の方に御参加いただきました。裁判所パートである1日目には、「消尽」をテーマに、日本、インド及び大韓民国による各国模擬裁判を行った後、「知的財産紛争解決の国際比較」をテーマにパネルディスカッションを行いました。



パネルディスカッションの様子

法務省パートである2日目には、模倣品対策に関する基調講演及びパネルディスカッションが行われ、特許庁パートである3日目には、審判実務や先端技術分野の審理についてのパネルディスカッションが行われました。

アジア各国の知的財産分野の専門家に4年ぶりに来日いただき、臨場感のある模擬裁判が行われたことに加え、デジタル化を含む各国の裁判手続の最近の実情についても充実した議論が行われ、各国の知的財産司法制度等をより深く知る貴重な機会となりました。



法服を着用してのインドの模擬裁判の様子

講演資料等（裁判所パート）は
こちらから確認ができます。

知的財産高等裁判所ウェブサイト

<https://www.ip.courts.go.jp/jsip/index.html>



本シンポジウムのアーカイブ
動画はYouTube上で公開中！

https://www.youtube.com/channel/UC8e_LoV04a5G254ry87EaoQ

